

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成28年 2月17日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	佐藤 広子

実施概要	実施活動名	ふようまつり
	実施日時	平成27年 9月12日(土) 10:30~13:00
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校 体育館
	実施目的	○障害児・者への理解、支援、連携が進むことを願い、地域との架け橋になるため開催する。 ○生徒が自主的に活動できる場を設定し、ともに楽しみながら多くの方々と交流を深める。 ○宮城教育大学をはじめとする多くの学生等がボランティアとしてかかわることができる場を設定し、障害のある児童生徒の理解を深め、教育者としての自覚を育む機会とする。
	実施内容	○生徒製作の製品を自ら展示・販売した。高等部3年生は喫茶コーナーを企画・運営した。 ○子どもコーナーや提供品コーナーでは、地域の小・中・高校生や住民と買い物やゲームを楽しんだ。 ○学部紹介のパネル掲示のほか、電子黒板で学校の紹介ビデオを流した。
	実施方法	○生徒の絵を使ったチラシやポスターを制作し、仙台市内の小・中学校、附属学校園、市内の主要施設、支援機関、卒業した校園、地域自治会などに幅広く広報した。また、新聞に紹介記事を掲載した。 ○大学構内での販売会や他校との交流会で生徒がチラシの配付を行った。 ○子どもコーナーは保護者が準備し、運営をボランティアに依頼した。
参加人数	350名	

報告事項	内容	○事業委員会の保護者20名が中心に準備に当たった。子ども、提供品、お気持ち手作り、喫茶の各コーナーの担当に分かれて企画・運営を行った。また、高等部3年生が喫茶店「ようかいアイランド」を企画・運営した。 ○作業所による販売では、前年度卒業生の就労先に優先して依頼し、これまでで最高の9事業所の出店となった。また、例年人気のあるアイスの移動販売車を設置した。 ○子どもコーナーは、全学部の児童生徒が楽しく遊べる内容とし、景品も工夫した。来場者用のカード、ボランティア用の名札も手作りした。ボランティアとして大学生11名、附属中学校生徒13名が参加した。 ○提供品、お気持ち手作りコーナーの展示方法を工夫し、来客が買い物しやすい雰囲気にした。 ○中学部と高等部の生徒が作業学習で製作した製品を販売するコーナーを設置した。 ○各学部の様子をパネル展示するとともに、入口に電子黒板を設置して学校の日常の様子を紹介した。
	結果	○当日の来校者数は254名と過去最高となった。チラシの配付先を増やしたことで新聞への掲載がよくなったと思われる。地域の方々や、児童生徒の家族、卒業生やその保護者、附属校園の保護者など、例年以上のお客様が来場され、高評価をいただいた。 ○年度早めに呼び掛けたことで、提供品が数多く集まった。保護者だけでなく関係者の友人、知人に手作り品の制作をお願いしたことで、手作りコーナーにはプロ並みのものが多く寄せられ、完売した。 ○作業所の出店は体育館内7つ、外部2つとこれまでで一番多かった。パン、弁当、生花、アイスと大変好評で、ほとんどが完売となった。生徒の製品も質が高く好評で、完売となった。 ○喫茶コーナーにテーブル8台を準備したほか、移動販売車の前と体育館脇に休憩所を設けたことで、ゆっくり飲食を楽しんでいただくことができた。
	所感	前日までの台風の影響を心配しましたが、このふようまつりを楽しみにしてくださる方も多く、チラシの配付数を増やしたことや初の新聞掲載で過去最高の来場者数となり、感激しました。 本学以外にも初めてボランティアをお願いし、児童生徒と楽しくかかわっていただいたことでお互い影響があったと思います。子どもたちが大いに盛り上がり、楽しく遊んだり販売活動に生き生きと取り組んだりする姿に成長を感じることができました。 出店していただいた作業所の販売の場に卒業生の姿が見られ、将来のよき手本となりました。

添付書類

写真



カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成28年 2月17日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
学年	高等部3年, 1年

ふようまつり「喫茶ようかいアイランド」を行ってみて（高等部三年生の感想）

九月十二日は、ふようまつりでした。

私たち高等部三年生は「喫茶ようかいアイランド」を行いました。当日を迎えるまでクラス内で様々な話合いや準備をしました。

今回、高等部最後のふようまつりになると、二年前に先輩方が喫茶をやっていたのを見ていて喫茶を私たちもやってみようと思いがまとまりました。クラスの話合いにより、喫茶の名前を子どもたちの人気アニメ「ようかいウォッチ」の「ようかい」と韓国の音楽グループ「FTISLAND」の「アイランド」を合わせて「ようかいアイランド」としました。喫茶で提供した飲み物は、りんごジュース、カルピス、ホットコーヒー、アイスコーヒー、ミルクティー、ウーロン茶の六種類でした。飲み物の中で一番売れたものはホットコーヒーでした。

喫茶は交代制で、前半四人、後半三人で行いました。服装は目立つように男子がはつぴとカチューシャ、女子はメイドエプロンとカチューシャにしました。男子のカチューシャは、ようかい風のものを用意して、それぞれものを選び身に付けました。

高等部最後のふようまつりは、事前の準備等が大変でしたが、当日はお客様がたくさん来てくださり、とてもうれしかったです。クラス全員で喫茶を行うことができとてもよい思い出になりました。

ふようまつりを振り返って（高等部一年生の感想）

最初は買い物をしました。子供コーナーにも行きました。子供コーナーは五こ全部しました。シールをはってもらって、おかしをもらいました。全部おわたって、けい品をもらいました。ゲームがいろいろあってもおもしろかったです。木工班のなべしきと、かやのみのメロンパンを買いました。メロンパンはプレーンとチョコチップ味です。ふんわりしておいしかったです。フォンテーヌのアイスクリームも買って食べました。アイスクリームはバニラ味で、冷たくておいしかったです。

最後にとうげい班の販売をしました。いろんな人が買って完売しました。売れなかったらどうしようと心配していましたが、完売してよかったです。

来年も完売したいです。

ふようまつりは楽しかったです。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成28年 2月17日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校

<全体について>

- ・当日は天候にも恵まれ、これまでで最高となる254名の来場者があり大変盛大だった。チラシの配付先を見直して手分けして配付したり、新聞への紹介記事の掲載が功を奏したと思う。生徒たちによる配付も効果的だった。親睦、連携、啓発というふようまつりの目的は十分達成されたのではないかと思う。
- ・宮城教育大学のほかにも他大学の学生や附属中学生が24名もボランティアとして協力くださり、子どもたちも大変喜んで大いに盛り上がった。
- ・附属校園の保護者や卒業生とご家族、地域の皆さんがたくさん来校くださり、買い物や喫茶コーナーでゆったり過ごしていただけて大変よかった。また、生徒たちが製品を販売したり、積極的に呼び込みをしたりする姿に励ましの声を掛けていただいた。製品の完成度も高く、完売出来たことは生徒の自信になったと思う。
- ・児童生徒、保護者、先生方が一体となって明るく楽しい雰囲気のおふようまつりとなり、お互いのつながりがより深まったと思う。

<作業所コーナー>

- ・作業所は過去最高の9か所の出店となった。ほとんどの作業所が完売となり、大変よかった。
- ・卒業生の働く姿を間近に見ることができ、児童生徒も保護者も大いに励みとなった。
- ・出店作業所の業種が多岐にわたり、商品もバラエティに富んでいて大変にぎわった。
- ・アイスの移動販売車が入り、お天気も良かったため外の休憩所が大変和やかな交流の場となっていた。

<提供品、お気持ち手作りコーナー>

- ・例年より早めに声掛けしたことで、提供品が多数確保できて大変よかった。品薄になることなく、後半においていただいたお客様にも楽しんでいただくことができた。
- ・レイアウトを工夫し、商品説明も細かにしたことで、多くの品物を買っていただくことができた。
- ・ボランティアの皆さんがメガホンで呼び込みをしてくださり、多くのお客様が立ち寄ってくださった。
- ・手作りコーナーは保護者だけでなくその友人や近隣の方々にも協力していただくことができ、質の高いものが多数出品された。ふようまつりの趣旨を理解いただき、完売の報告を大変喜んでくださった。

<喫茶コーナー>

- ・保護者の喫茶コーナーとともに高等部3年生が企画・運営するコーナーを併設した。メイド服やはっぴで雰囲気を盛り上げ、注文から会計まで自分たちで行い、日頃の学習の成果が十分発揮される機会となった。
- ・テーブルの配置に工夫を凝らし、椅子を多数置いたことでお客様がゆっくり休める雰囲気を作った。手作りのテーブル飾りや小花を置くアイデアも雰囲気づくりにつながった。

<子どもコーナー>

- ・大学生や附属中学校生がボランティアとして子どもたちとかかわってくださり、大変活気にあふれた楽しいコーナーとなった。
- ・会場の飾り、スタンプラリーカード、入場門、ボランティアさんの名札まですべて手作りし、にぎやかな中にも温かな雰囲気があふれていた。外部からのお子さんも多数訪れ、何度もコーナーをめぐる姿が見られた。
- ・ボウリングや釣りゲームなど、5つのコーナーすべてを回るともらえる景品が大好評で、毎年それを目当てにくるお子さんも多く見られる。